

現代ジャーナリズムにおける住宅記述に関する研究 建築専門雑誌と非建築専門雑誌の比較考察

ジャーナリズム 住宅 記述 専門雑誌 比較

正会員 ○近藤 正一*
 同 津田 愛子**
 同 北川 啓介***
 同 若山 滋 ***

1. 序論

「建築家の文章は難しい」とよく言われる。これにはふたつの理由があると考える。まず、専門家はその分野における特別な概念を特別な言葉によって彼らの間で共有している点、もうひとつは、建築分野においては専門家以外の人々も体験的にそれぞれの価値観と興味をもっており建築家の文章を理解したいと思っている点である。また、住宅の評価においては、作り手の専門的知識に基づく発言が説得力をもつとともに、住まい手・使い手・鑑賞者という立場の発言も重要である。本研究は、専門家とそうでない人の建築に対する価値観・表現の差異を明らかにすることを目的として、同じ住宅を記述する文章の展開形式・内容・語彙から、両者の住宅に対する価値観を比較考察する。

2. 研究対象

現在定期刊行されている雑誌のうち、建築分野のみの情報を掲載している雑誌を建築専門雑誌と定義する。また、建築についての記事を掲載しつつ建築分野以外の記事を取り扱う雑誌を非建築専門雑誌と定義する。1990年代半ばから非建築専門雑誌が多く創刊されており、1997年にはほぼ出揃う。そこで、本研究では1997年1月～2000年8月の間継続して刊行されており、この期間に建築専門雑誌と比較できる数量の住宅記事を掲載している『AXIS』、『Brutus CASA』、『confort』、『モダンリビング』の4雑誌を非建築専門雑誌と呼び、この期間の住宅記事を研究対象とする。さらに、4誌に掲載されている住宅記事のうち1990年1月～2000年8月までの『新建築 住宅特集』にも掲載されている住宅記事40組84件を対象資料とする。『新建築 住宅特集』は住宅建築のみを掲載する雑誌の中で代表的なものひとつであり、本研究中で建築専門雑誌と呼ぶこととする。

3. 研究の方法

- 1) 非建築専門雑誌の中にもそれぞれ想定する読者層や発信する情報を選択する価値基準がある。この違いを把握した上で建築専門雑誌との比較を行うため、4誌(1997-2000)について、住宅記事の編集企画内容のカテゴリ一分けを行い、各誌の編集傾向を見る。
- 2-1) 記事全文を話題によっていくつかの形式に分類し、記事の冒頭から末尾までの話題の推移から、文章の展開

のされかた・話題の重要度を比較考察する。

- 2-2) 次に、各形式内のうち重要なものについて、記述対象(部位、場所など)とその要約を比較考察する。
- 3-1) 記事の中で住宅の描写・住宅に対する視点の現れる部分をキーフレーズとして抽出し、その中からキーワードを選定する。建築専門雑誌・非建築専門雑誌それぞれの雑誌に特有なキーワードと、双方に重複するキーワードについて比較考察を行う。
- 3-2) また、重複しているものについては、使われ方をキーフレーズから読みとり、その差異を見る。

4. 記述の形式推移・内容に関する比較

話題の推移を見るため、記事中に現れる話題を「現代社会の認識・批判」「設計条件」「背景情報・予備知識」「施主についての記述」「建築の描写・説明」「建築家の思考」「設計プロセス」「施工プロセス」「建築の評価」の9つに分類した。この結果(図-1)、話題の推移における双方の共通点として、建築家の背景情報や敷地の周辺環境、社会に対する認識などの記述の後に住宅を描写・説明について記述され、その後でその建築に対する評価や建築家の思考が記述されるパターンが見られた。相違点としては、非建築専門雑誌の建築の記述・描写においては施主の要望・ライフルスタイルと結びつき、またこれらに基づいた評価がされているが、建築専門雑誌においては、建築家の住宅設計思想や設計コンセプトと建築の描写・説明が交互に繰り返され、思想と建築の密接な結びつきが読みとれる。

記事の内容については、形式推移図で重要度の高かった

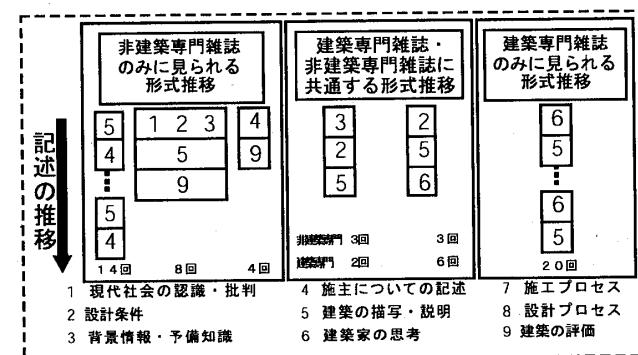


図-1 形式推移図 (文章展開の主要パターン)

*a study on description of houses in modern journalism
contrasting the professional magazines with the others*

KONDO Shoichi, TSUDA Aiko, KITAGAWA Keisuke, WAKAYAMA Shigeru

「建築の描写・説明」と「建築家の思考」について考察を行つた。「建築の描写・説明」の記述内容では、住宅の説明手法に明らかな差が見られた。非建築専門雑誌では、住宅を記述する際の意識の方向・焦点が住宅の内部にあり、外部と内部の境界である玄関から内部へ入って人の集まる場所・明るい場所へと向かう方向性を持った記述がされる。これに対し、建築専門雑誌では、外部と接する場所を内部と対比した記述がされる。また、非建築専門雑誌（ことに『モダンリビング』）では明るさ・光に注目し、快適なものとして描写しているのに対し、建築専門雑誌では光と影の両方を認識し記述している。「建築家の思考」の記述内容では、「住宅設計=都市設計」「都市に住むという意志」といった都市と住宅の関係性への意識が建築専門雑誌に顕著に現れているが、非建築専門雑誌全体では特に目立たない。

非建築専門雑誌の中でも『AXIS』と『Brutus CASA』は、玄関というものの存在や暮らしやすさなど非建築専門雑誌特有の指標に触れながらも、内部と外部の連続性や都市との関係性に注目して住宅を評価する視点を持っており、建築専門雑誌に現れる記述の特徴も備えている。

5. キーワードによる記述表現の比較

抽出したキーワードを建築専門雑誌・非建築専門雑誌ごとに集計し、2者それぞれに特徴的なキーワードと両者に重複して現れるキーワードの3種類に分類した（図-2）。非建築専門雑誌に特徴的なキーワードには、「家具」「窓」といった具体的な名詞が多くあり、それらは住宅の内部空間を示すものに限られている。つまり、非建築専門雑誌では内部空間が意識されているといえる。また、特色を持つキーワードとして抽象的名詞である「光」が見られ、前段の考察と併せて、非建築専門雑誌は住宅において光の持つ明るさに注目していることがわかる。これに対して、建築専門雑誌では、「テラス」「屋根」のように住宅の物理的・具体的な側面と「家族」「領域」のように抽象的な側面の両方を重視したキーワードが現れ、加えて「構造」「架構」のような建築専門用語が多く含まれている。また、具体的な場所を指す名詞・抽象名詞とともに住宅の内部空間と外部空間の両方が重要なものとして意識されており、さらに「内部」「外部」などの対義的な概念が「連続」「構成」といったキーワードで関連づけられている。

双方に重複して見られるキーワードには、「玄関」「壁」などの具体的なものと「機能」「生活」などの抽象的なもの両方が見られるが、住宅の外部を指す単語は現れない。これは、非建築専門雑誌において外部空間を記述することが少ないためである。さらに、「空間」というキーワードの重複回数が突出して多く、双方が「空間」を住宅を記述するための非常に重要な言葉としてとらえていることがわかる。

このキーワードは、非建築専門雑誌では通常意味するところの「物と物との間の空隙」や「部屋」「場所」の意味として使われる場合が多いが、建築専門雑誌では、この他にも「領域」や「場」という抽象的な意味をこめて使われることがあり、同じ言葉でも含意の異なる使い方をされている。

6. 結論

本研究で比較考察した雑誌は、それぞれ専門家とそうではない人々に向けられたものであり、記事に現れる差異は書き手と読者が共有している価値観の差異と言え換えることができる。住み手や一般的な鑑賞者は、「光」のあふれる明るい「空間」を良い住空間とし、そこに人の集まる光景を重ねている。住宅が内部に偏って描かれているのはこのためである。これに対し、専門家は光と影・内部と外部といった抽象的な概念の表現として住空間をとらえることがあり、それらの両面性を認識し、対比や連続に注目している。また、住宅を都市空間と関連づけた思考もされている。専門家ではない書き手は、「居間」といった場所を指示する言葉や「気持ちよい」といった感覚的な形容詞で住空間を表現するが、専門家は抽象的概念や専門用語を用いたり、独自の含意を持たせて表現する。専門家とそうではない人が、時にお互いの意図を読みとれず、また伝えられない感じことがあるのは、住宅に対して持つ価値観の差異と、そこから生まれる表現・含意の差異によるのである。

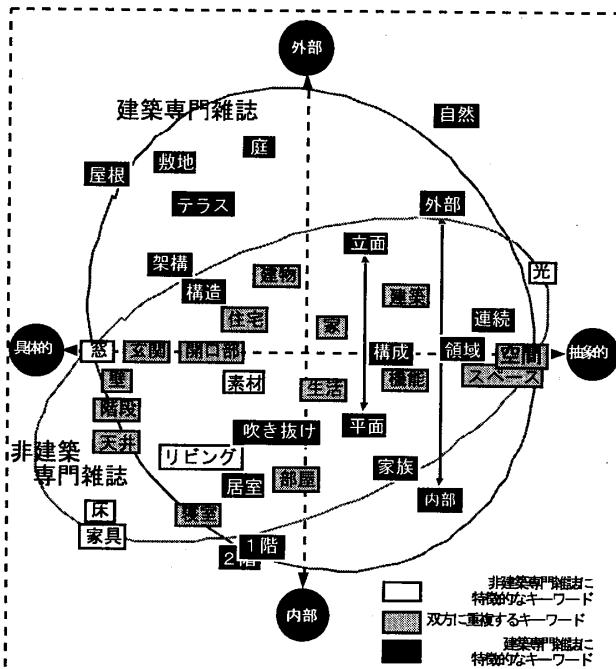


図-2 キーワードの傾向分類

なお、本研究は、平成12年度名古屋工業大学研究活性化経費による研究助成（奨励研究）を受けて実施した。

* 日本文理大学・修士（工学）

** 積水ハウス

*** 名古屋工業大学・博士（工学）

* Nippon Bunri University, M. Eng.

** Sekisui House

*** Nagoya Institute of Technology, Dr. Eng.